

## インフルエンザ定点(小児科定点を含む)

インフルエンザ: 報告数1,155件(前月比 0.7、前年同月比 1.4)で、今季は1月をピークに漸減していますが、5月は例年に比べると減少の幅が鈍っているようです。5月に入っても県内の小中学校、幼稚園の学校・学級閉鎖、休園の報告がありました。山鹿(25.7)、菊池(27.1)からの報告が多いようです。

※( )書きは1ヶ月の報告数を定点数で割った値。以下同じ。

## 小児科定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が48医療機関から50医療機関に増えました。

## (全体傾向)

報告数5,402件(前月比 1.2、前年同月比 1.2)と、1月から減少傾向が続いていましたが、5月は増加に転じました。インフルエンザは4月に引き続き減少しているものの(前月比 0.7)、5月は多くの疾患で増加がみられ、とくに咽頭結膜炎(前月比 1.9)、A群溶レン菌咽頭炎(前月比 1.6)、手足口病(前月比 3.8)、ヘルパンギーナ(前月比 3.0)、流行性耳下腺炎(前月比 1.8)が目立ちます。その他にも感染性胃腸炎(前月比 1.2)、水痘(前月比 1.3)、伝染性紅斑(前月比 1.6)、突発性発疹(前月比 1.5)と軒並み増加しました。この結果、5月は全体として増加に転じたものと考えられます。

## (疾患別傾向)

1. RSウイルス感染症: 報告件数7件(前月比 0.3、前年同月比 1.2)で、今年は1月から連続的な減少傾向を認め、例年並みの推移を示しています。
2. 咽頭結膜熱: 報告数124件(前月比 1.9、前年同月比 1.2)で、1月から毎月連続的に減少傾向を示していましたが、5月は一気に増加に転じました。菊池(8.0)からの報告が若干多いようです。
3. A群溶連菌咽頭炎: 報告数549件(前月比 1.6、前年同月比 1.5)で、1月からほぼ横ばいで推移していましたが、5月は一気に増加に転じました。菊池(28.6)、宇城(21.8)地区からの報告が多いようです。
4. 感染性胃腸炎: 報告数1,987件(前月比 1.2、前年同月比 1.0)で、1月から減少傾向が続いていましたが、5月は増加に転じました。県内全域から報告がみられます。
5. 水痘: 報告数508件(前月比 1.3、前年同月比 1.4)で、1月から漸減傾向がみられましたが、5月は増加に転じ、今年最も多い報告件数でした。例年、6月までの前半期に多くみられますが、引き続き今後の動向に注意が必要です。菊池(23.2)からの報告が多いようです。
6. 手足口病: 報告数438件(前月比 3.8、前年同月比 20.9)で、4月から増加を認め5月はさらに増加しています。昨年と比較し今年は立ち上がり早いようですので、今後の動向に注意を要します。菊池(24.0)からの報告が多いようです。
7. 伝染性紅斑: 報告数14件(前月比 1.6、前年同月比 0.6)で、前月よりは多い報告件数ですが、昨年から引き続き少数で推移しており、その傾向は変わらないようです。

8. 突発性発疹症： 報告数274件(前月比 1. 5、前年同月比 1. 1)で、5月は増加の幅が大きく目立ち、一昨年来最も多い件数でした。例年、月別の増減はあるものの年間を通してほぼ一定の件数で推移していますが、今後の動向に注意を要します。菊池(12. 0)からの報告が多いようです。
9. 百日咳： 報告数0件(前月比 ー、前年同月比 ー)で、5月は報告ありませんでした。
10. ヘルパンギーナ： 報告数100件(前月比 3. 0、前年同月比 0. 7)で、今年は4月から増加傾向がみられ、これから夏季に向かい急速に増加する例年並みの推移と考えられます。天草(7. 8)からの報告が多いようです。
11. 流行性耳下腺炎 報告数35件(前月比 1. 8、前年同月比 0. 2)で、5月は若干増加したものの、昨年から連続的な減少傾向を認め、今年は少数で推移しています。

## 眼科定点

1. 急性出血性結膜炎： 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎： 報告数55件(前月比1. 1、前年比0. 9)と前月より微増しています。地域別では熊本52件、菊池1件、天草2件の報告です。年齢別では20～39歳代で約40%を占めていますが、70歳以上の発症も目立ちます。

## STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。そのため、前年とは比較できませんが、クラミジアを除いて著明に増加していました。

1. 性器クラミジア感染症：報告数 52件(前月比 0. 8、前年比 0. 8)でした。前月比、前年同月比とも減少しています。男女別は、女性が34件と多く見られています。年齢別は、女性は20～24歳に12件と多く、男性では25～29歳に7件と多く見られています。地域別は、熊本42件と圧倒的に多く、次いで八代、有明に各4件、菊池、宇城に各1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症：  
報告数 24件(前月比 1. 4、前年比 2. 2)でした。前月比、前年同月比とも著明に増加しています。男女別は、女性が14件と多く、年齢別では、女性では20～70歳以上と幅広く、男性では10～49歳に見られています。地域別は、熊本が18件と圧倒的に多く、次いで有明3件、菊池、八代、宇城に各1件でした。
3. 尖圭コンジローマ： 報告数は11件(前月比 2. 8、前年比1. 6)でした。前月比、前年同月比とも著明に増加しています。男女別は、男性が9件と多く見られています。年齢別は、男性では25～29歳に4件と多く、女性では20～24歳に見られています。地域別は、熊本7件、八代2件、御船、宇城に各1件でした。
4. 淋菌感染症： 報告数21件(前月比 1. 2、前年比 1. 4)でした。前月比、前年同月比とも増加しています。男女別は、男性に14件と多く見られています。年齢別は、男性は25～29歳に6件と多く、女性では15～34歳に見られています。地域別は、熊本12件、八代5件、宇城に4件でした。

## 基幹定点

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎: 報告数1件(前月比 0.5、前年同月比 +1)でした。
2. 無菌性髄膜炎: 報告数3件(前月比 1.5、前年同月比 1.5)でした。
3. マイコプラズマ肺炎: 報告数13件(前月比 0.9、前年同月比 0.8)でした。やや減少も1昨年より多い傾向が続いており、昨年同様に流行する可能性があります。天草が定点あたり12と特に多くなっています。
4. クラミジア肺炎: 報告数2件(前月比 2.0、前年同月比 +2)でした。

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症:  
報告数27件(前月比 1.0、前年同月比 0.5)でした。15件(56%)が70歳以上でした。昨年より少ないものの今年最少であった2月の約2倍となっており、再増加しています。阿蘇(5.0)、山鹿(4.0)、八代(4.0)が多くなっています。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症:  
報告数2件(前月比 0.3、前年同月比 2.0)でした。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症: 報告数0件(前月比 ±0、前年同月比 ±0)でした。この1年で1例です。
4. 薬剤耐性アシネトバクター感染症:  
報告数0件(前月比 ±0、前年同月比 ±0)でした。この1年で0例です。

## 届け出対象感染症

- 1類感染症: 報告はありませんでした。
- 2類感染症: 結核: 42件
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症: 3件
- 4類感染症: 重症熱性血小板減少症候群: 1件  
日本紅斑熱: 1件  
レジオネラ症: 2件
- 5類感染症: アメーバ赤痢: 1件  
後天性免疫不全症候群: 1件  
侵襲性肺炎球菌感染症: 3件  
破傷風: 1件  
風しん: 12件